



琵琶湖における水害の歴史と水位調節の工夫



水害の歴史（明治29年）琵琶湖大洪水

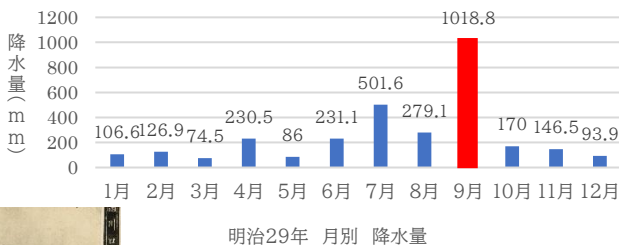
琵琶湖の水がゆい、いつ流れ出る自然の川・・・瀬田川

瀬田川があふれるとまわりが水浸しになってしまいます。

琵琶湖大洪水とは

明治29年の9月3日から12日の10日間で1008mm（約1m）の雨量（年間平均降水量の6割に達する）を記録、特に7日には彦根で1日の降水量が597mm（約60cm）に達しました。このため琵琶湖の水位は+3.76mの過去最高水位を記録されました。浸水日数は237日に及びました。

彦根測候所の明治29年月別降水量



当時の様子

この年は7月までに通常の1年分の雨が降ったみたいだよ。



湖西の方は山が多い（土地が高い）から赤いところ（浸水しているところ）は少ないけれど、湖東の方は平野部（土地が低い）だから赤いところが多いね。

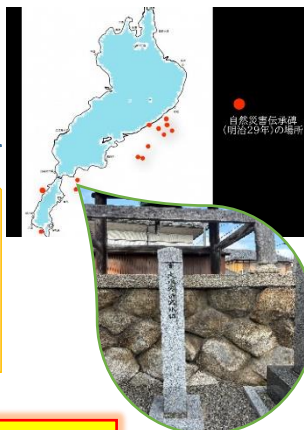
明治29年琵琶湖大洪水の人的被害について

亡くなった人、行方不明者	34人
怪我をした人	79人
流されてしまった家の軒数	1749軒
半壊した家の軒数	7904軒
床上床下浸水した家の軒数	58191軒

これだけたくさんの被害が出たので、大雨による洪水が起こった時の対策として、南郷洗堰が作られることになりました。（1905年）

自然災害伝承碑

災害の歴史を忘れないために県内には様々な場所に「伝承碑」があります。



守山市 浄宗寺にある伝承碑

琵琶湖河川事務所の仕事の工夫について



河川事務所の内部

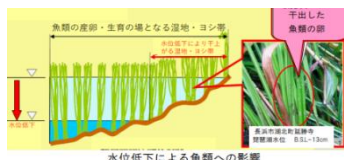
たくさんのモニターで川や琵琶湖の様子がはっきりと分かるね。



滋賀県だけでなく、京都や大阪などにも琵琶湖の水が流れています。琵琶湖の水は約1450万人の人に利用されています。そんな多くの人々に安心してもらうために日々、水位の管理をされています。

6月だけ毎年同じ水位になっているね。自然ではこのようなことは起きないね。管理事務所の人が調節しているんだね。グラフから他にも何か気づくことがあるかもしれないね。

河川事務所が6月に行っている工夫

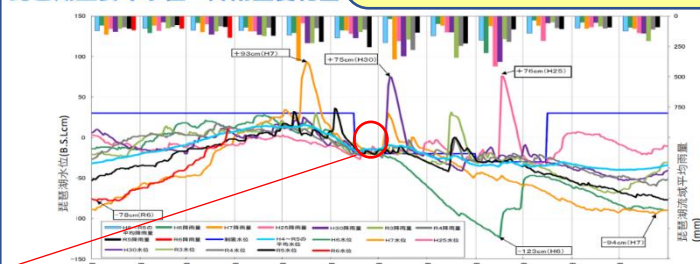


①魚の卵が育ちやすい環境にする



②梅雨や台風などの急な水位変化への対応

琵琶湖主要年水位・降水量変化図



琵琶湖河川事務所働く人々は色々な立場のことを考えています。滋賀県に住んでいる人は水位が高くなってくと危険を感じますが、京都や大阪など下流に住んでいる人にとっては川の水が増水すると危険を感じます。また、生き物にとっては水位が低いと生きることができないこともあります。かつて被害のあった歴史から誰もが過ごしやすい環境を作ることに日々意識して仕事をされています。

水位を調節することはわたしたち人間のためだけでなく、魚など多くの生き物のためにも計画されているんだね。



瀬田川洗堰



琵琶湖大洪水「浸水想定図」
※粟東市歴史民俗博物館 蔵